

# 地 域 経 済 動 向

令和3年3月5日



内閣府政策統括官  
(経済財政分析担当)

## 目 次

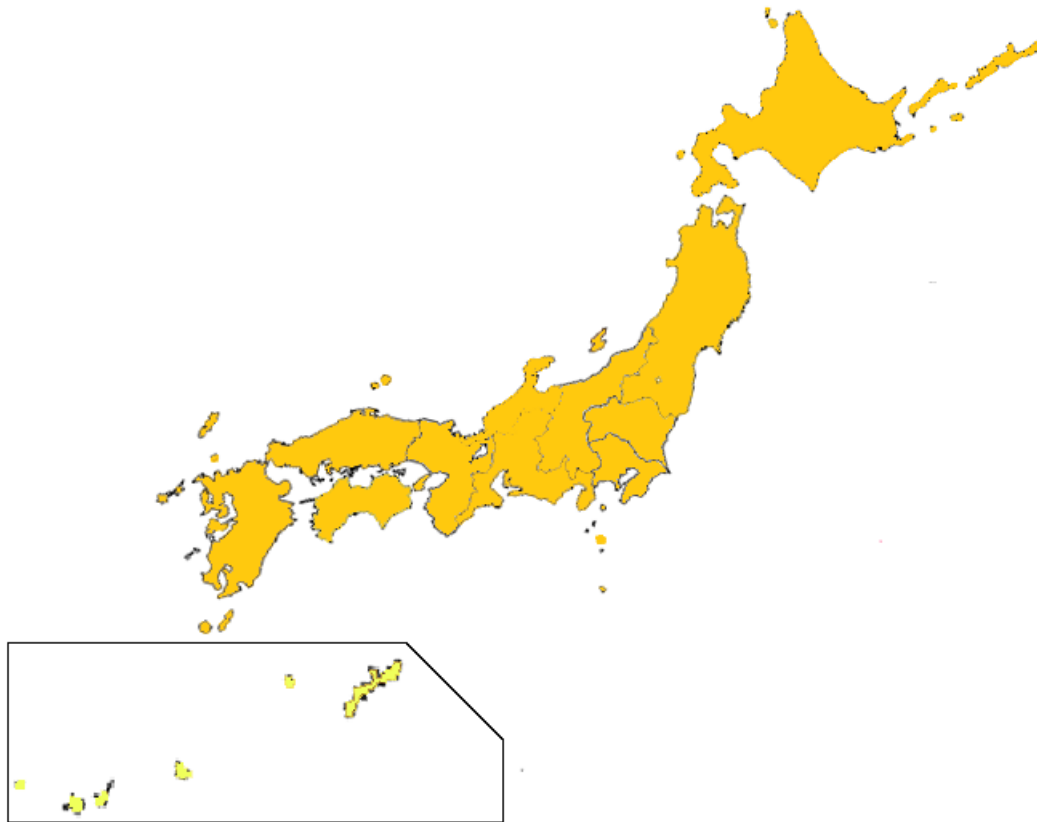
- 1 概況
- 2 分野別の動き
- 3 地域別の動向
  - (1) 北海道
  - (2) 東北
  - (3) 北関東
  - (4) 南関東
  - (5) 甲信越
  - (6) 東海
  - (7) 北陸
  - (8) 近畿
  - (9) 中国
  - (10) 四国
  - (11) 九州
  - (12) 沖縄
  - (13) 景気ウォッチャー調査（令和3年1月調査）  
景気判断理由の概要
- 4 主要指標
- 5 参考資料

# 1 概況

## (1) 各地域の景況判断

地域別の景況判断（景気の変化方向）は以下のとおり。

- ・北海道地域は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられる。
- ・東北地域は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられる。
- ・北関東地域は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられる。
- ・南関東地域は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられる。
- ・甲信越地域は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられる。
- ・東海地域は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられる。
- ・北陸地域は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられる。
- ・近畿地域は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられる。
- ・中国地域は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられる。
- ・四国地域は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられる。
- ・九州地域は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられる。
- ・沖縄地域は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いていたが、このところ弱含んでいる。



・新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられる  
 ー 北海道、東北、北関東、南関東、甲信越、東海、北陸、近畿、中国、四国、九州

・新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いていたが、このところ弱含んでいる  
 ー 沖縄

(注) 上図は、景気の変化方向の記述（緩やかに回復している、持ち直している等）に基づき、分類・色分けしている。

本報告書では、原則として下記の地域区分を採用している。ただし、下記地域区分によらない場合は備考にその旨を明記している。

地域名	都道府県名	
北海道	北海道	
東北	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島	
関東	北関東	茨城、栃木、群馬
	南関東	埼玉、千葉、東京、神奈川
甲信越	新潟、山梨、長野	
東海	静岡、岐阜、愛知、三重	
北陸	富山、石川、福井	
近畿	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山	
中国	鳥取、島根、岡山、広島、山口	
四国	徳島、香川、愛媛、高知	
九州	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島	
沖縄	沖縄	

(2) 各地域の景況判断と主要変更点

		北海道	東北	北関東	南関東	甲信越	東海
景況判断	12月 (前回)	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、持ち直しの動きがみられる。なお、ヒアリングによれば、足下の感染者数増加による下振れ懸念が一部の業種で強まっている	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、持ち直しの動きがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、持ち直しの動きがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、持ち直しの動きがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、持ち直しの動きがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、持ち直しの動きがみられる
	3月 (今回)	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられる
		↓	↓	↓	↓	↓	↓
鉱工業生産 (沖縄は観光)	12月	下げ止まりつつある	持ち直しの動きがみられる	持ち直している	持ち直している	持ち直しの動きがみられる	持ち直している
	3月	持ち直している	持ち直している	持ち直している	持ち直している	持ち直している	持ち直している
		↑	↑	→	→	↑	→
個人消費	12月	持ち直している。なお、ヒアリングによれば、足下における感染者数増加による下振れ懸念が一部の業種で強まっている	持ち直している	持ち直している	持ち直している。なお、ヒアリングによれば、足下における感染者数増加による下振れ懸念が一部の業種で強まっている	持ち直している	持ち直している
	3月	このところ弱含んでいる	このところ弱含んでいる	このところ弱含んでいる	このところ弱含んでいる	このところ弱含んでいる	このところ弱含んでいる
		↓	↓	↓	↓	↓	↓
雇用情勢	12月	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる
	3月	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる
		→	→	→	→	→	→

(注) ↑は上方に判断を変更、→は変更なし、↓は下方に判断を変更。

北 陸	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、持ち直しの動きがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、持ち直しの動きがみられる。なお、ヒアリングによれば、足下の感染者数増加による下振れ懸念が一部の業種で強まっている	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、持ち直しの動きがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、持ち直しの動きがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、持ち直しの動きがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、持ち直しの動きがみられる。なお、ヒアリングによれば、足下の感染者数増加による下振れ懸念が一部の業種で強まっている
新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、このところ弱含んでいる
⇓	⇓	⇓	⇓	⇓	⇓
持ち直しの動きがみられる	持ち直している	持ち直している	下げ止まりつつある	持ち直している	一部に持ち直しの動きがみられる。なお、ヒアリングによれば、足下の国内の感染者数増加による下振れが懸念されている
持ち直している	持ち直している	持ち直している	持ち直しの動きがみられる	持ち直している	このところ弱い動きとなっている
↑	→	→	↑	→	↓
持ち直している	持ち直している。なお、ヒアリングによれば、足下における感染者数増加による下振れ懸念が一部の業種で強まっている	持ち直している	持ち直している	持ち直している	持ち直している
このところ弱含んでいる	このところ弱含んでいる	このところ弱含んでいる	このところ弱含んでいる	このところ弱含んでいる	このところ弱含んでいる
↓	↓	↓	↓	↓	↓
感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる
感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる
→	→	→	→	→	→

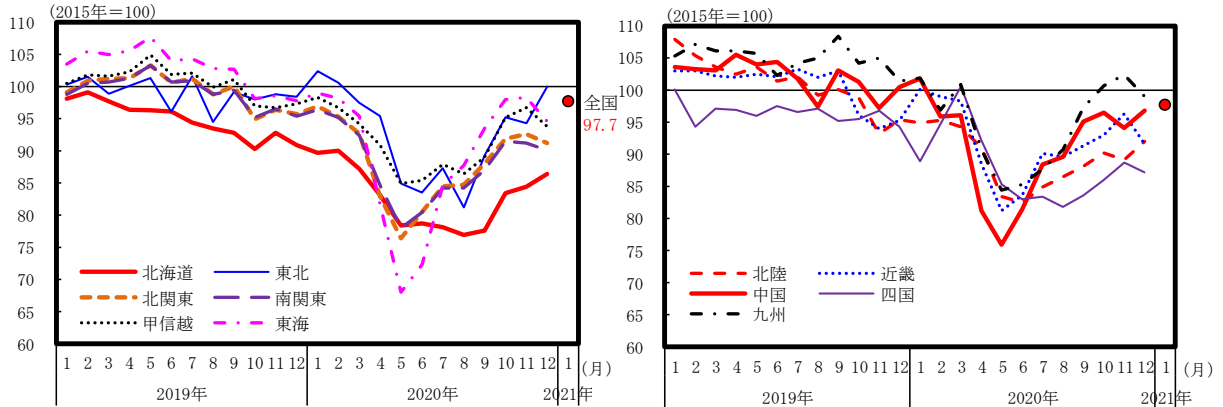
## 2 分野別の動き

＜生産＞北海道、東北、北関東、南関東、甲信越、東海、北陸、近畿、中国、九州は持ち直している。四国は持ち直しの動きがみられる。

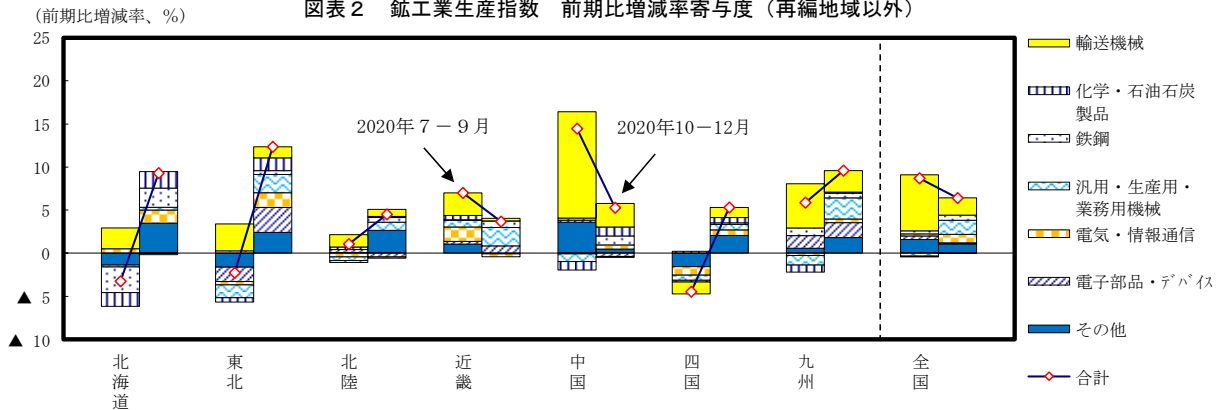
○ 鉱工業生産指数（季節調整値）について、2020年10-12月期の動きをみると、東北（前期比12.3）、九州（同9.6）など全ての地域でプラスとなった。

輸送機械（乗用車）や汎用・生産用・業務用機械（半導体製造装置）の増加が上昇に寄与した地域がみられた（図表1～3）。

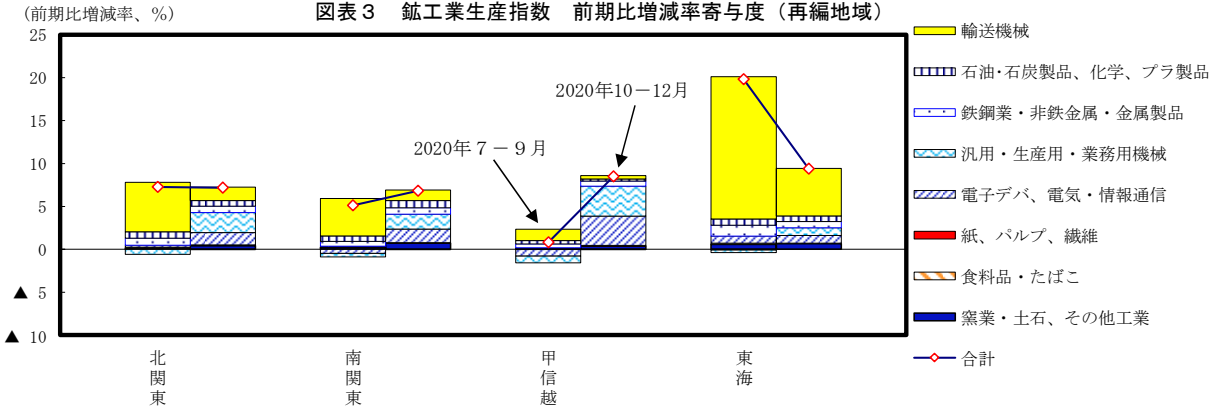
図表1 鉱工業生産指数（季節調整値）の推移



図表2 鉱工業生産指数 前期比増減率寄与度（再編地域以外）



図表3 鉱工業生産指数 前期比増減率寄与度（再編地域）



（備考）図表1、2、3：経済産業省、各経済産業局、中部経済産業局電力・ガス事業北陸支局「鉱工業生産動向」により作成。基準年は2015年。季節調整値。

北関東、南関東、甲信越は関東経済産業局、東海は関東経済産業局、中部経済産業局の「鉱工業指数の動向」により内閣府にて算出。

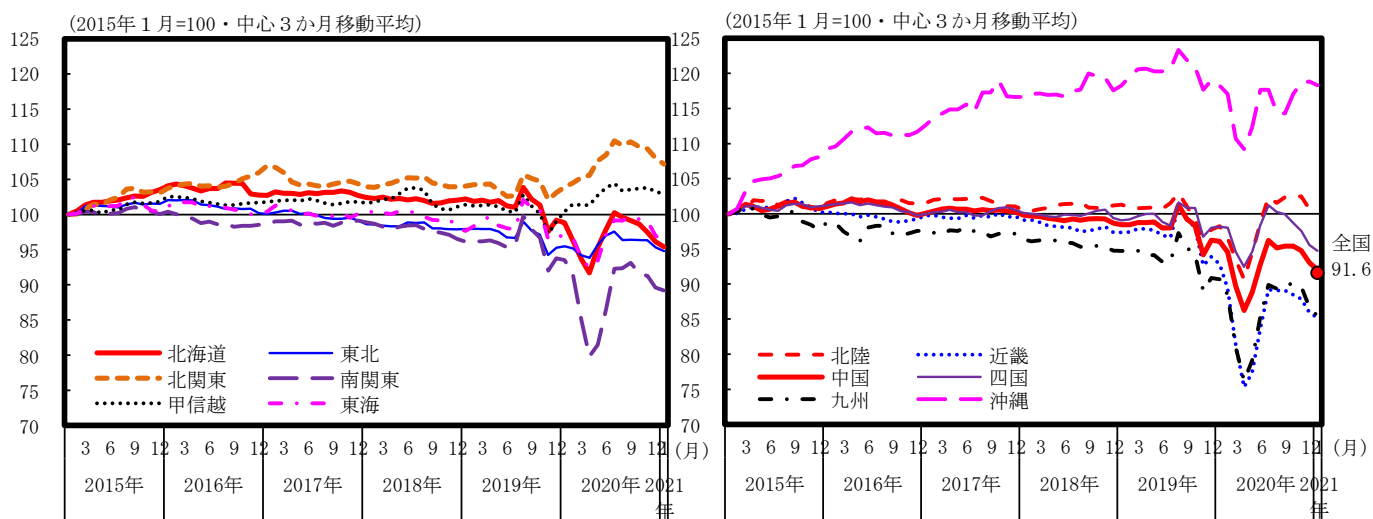
図表1：全国は1月の速報値。その他地域は12月の速報値。

図表2：全国、東北、北陸、近畿の「汎用・生産用・業務用機械」は生産用機械、汎用・業務用機械を足したもの。北海道の「汎用・生産用・業務用機械」は一般機械。全国、近畿、中国の「化学・石油石炭製品工業」は化学と石油・石炭製品を足したもの。全国、東北の「電気・情報通信工業」は電気機械と情報通信機械を足したもの。

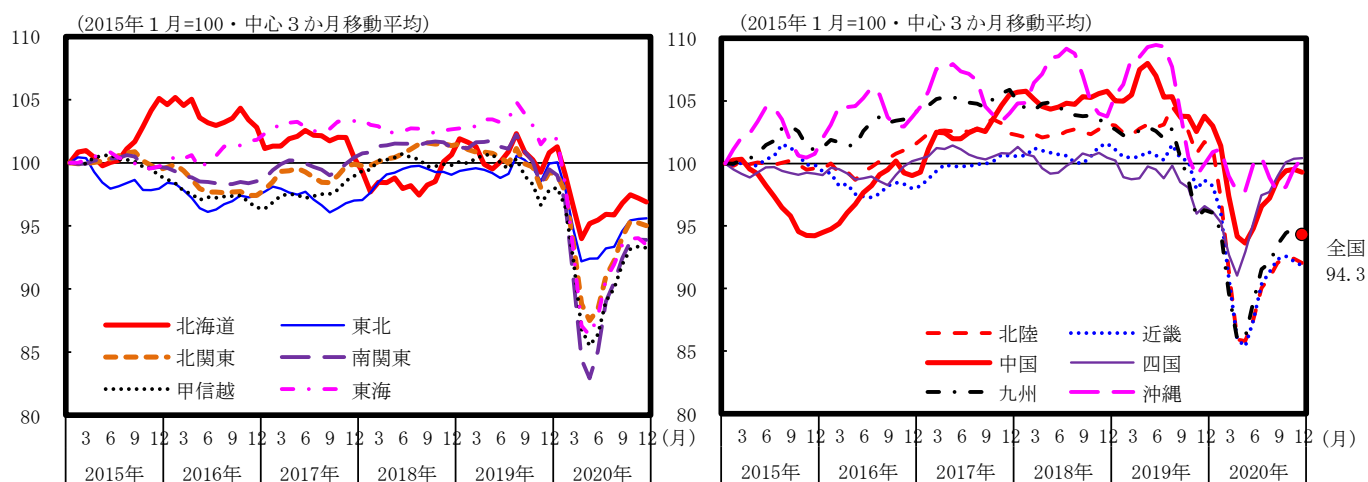
＜消費＞個人消費はこのところ弱含んでいる。

- 消費について、2020年10-12月期の百貨店・スーパー販売額（実質・季節調整値）の動きをみると、沖縄（前期比3.7）、北陸（同0.9）等で全国（同▲0.8）を上回る一方、四国（同▲2.7）、北海道（同▲2.1）等は下回った（図表1）。
- 地域別消費総合指数（実質・季節調整値）は、10月はほぼ全ての地域で上昇したが、11月から12月にかけて複数の地域で弱含みの傾向がみられる（図表2）。
- カード支出に基づく消費動向をみると、全ての地域で財支出は底堅く、サービス支出は弱い動きとなっている。特に外出自粛による来客数減少の影響で前年比のマイナス幅が拡大。特に北海道及び、札幌市、東京特別区、大阪市で前年比のマイナス幅が大きい（図表5）。

図表1 百貨店・スーパー販売額（実質・季節調整値）の推移



図表2 地域別消費総合指数（実質・季節調整値）の推移



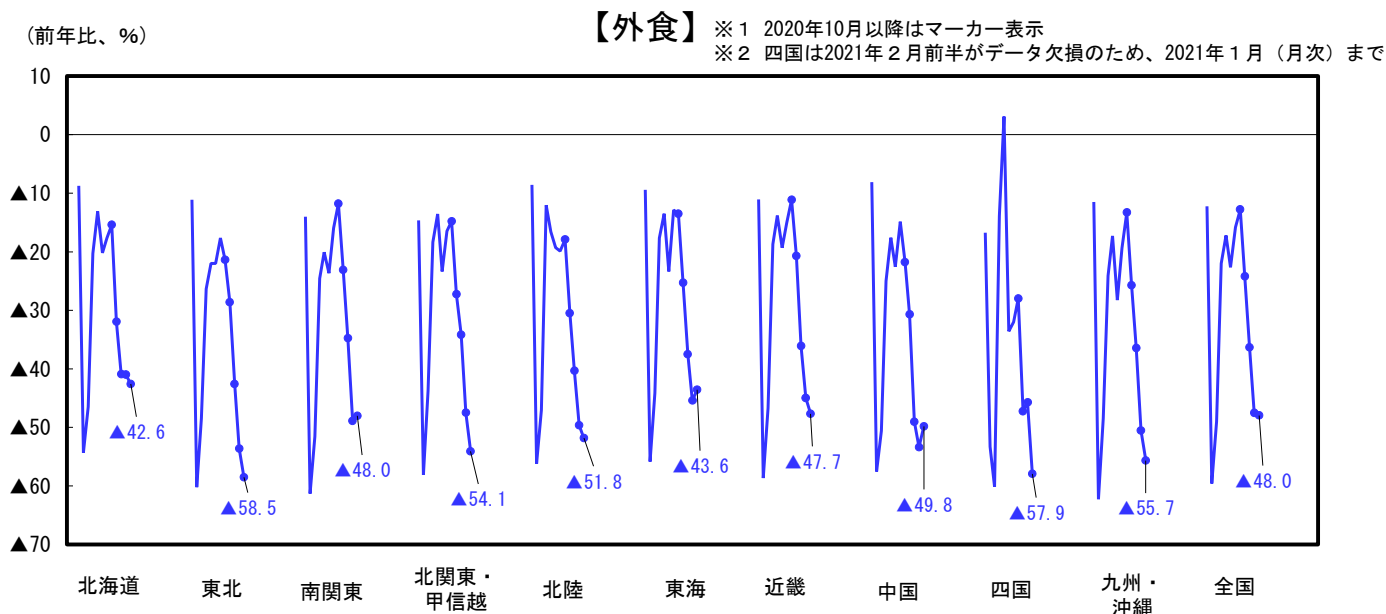
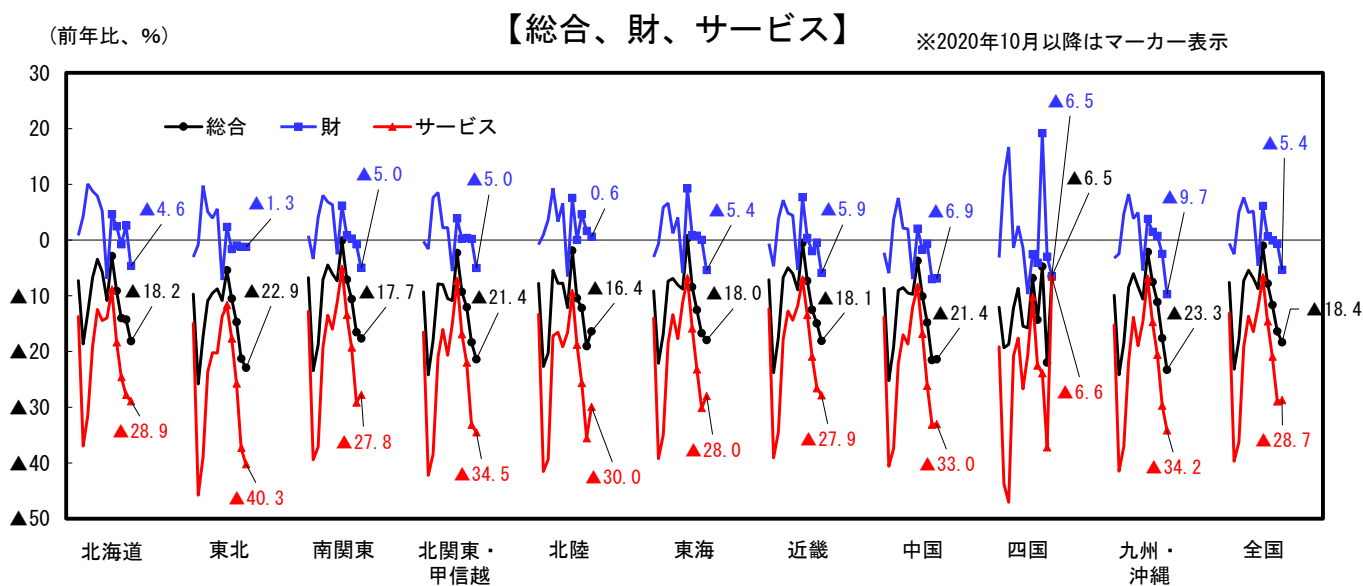
（備考）図表1：経済産業省「商業動態統計」、総務省「消費者物価指数」により作成し、内閣府にて季節調整。

北関東、南関東、甲信越、北陸の消費者物価指数は、総務省「消費者物価指数」の各都道府県の県庁所在地別の消費者物価指数を、総務省「国勢調査」の二人以上世帯数を用いて加重平均し、内閣府にて作成。なお、消費者物価指数は、総合指数による。直近月は速報値、2か月平均。

図表2：内閣府「地域別支出総合指数（RDEI）」により作成。季節調整値。

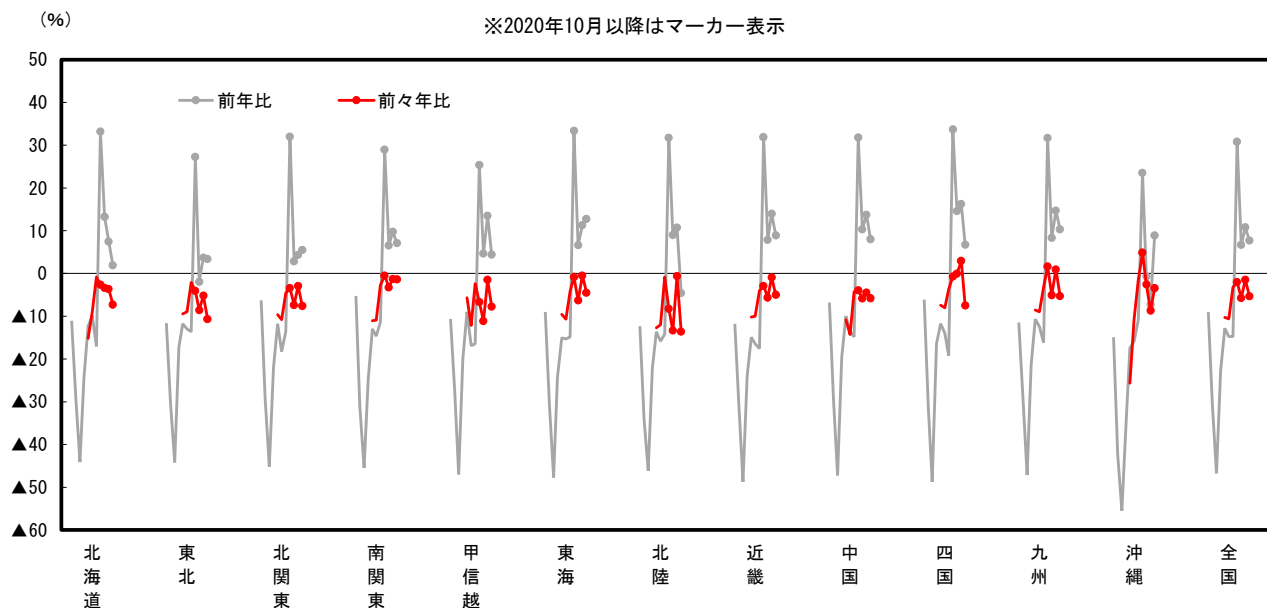


図表3 カード支出に基づく消費動向（2020年3月～2021年1月（月次）、2021年2月前半（半月次））

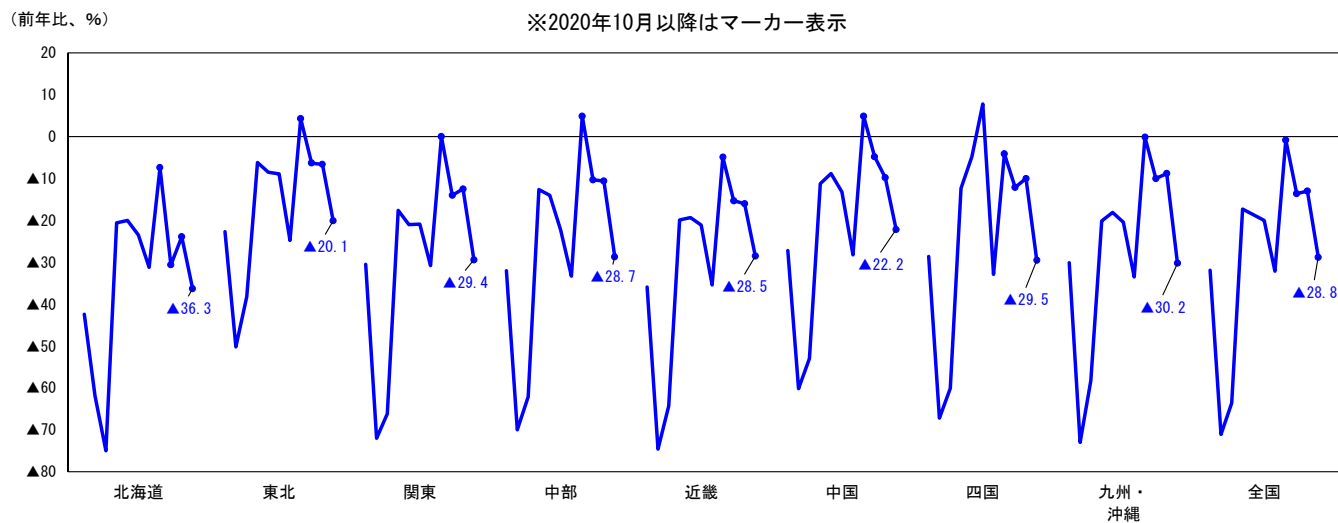


(備考) 図表3：株式会社ナウキャスト、株式会社ジェーシービー「JCB消費NOW」により作成。渡辺努「クレジットカード支出金額の『一人当たり支出金額』と『支出者数』への分解」(2020年4月)の参考系列。  
2020年3月～2021年1月は月次データ、2021年2月前半は半月次データより作成。

図表4 乗用車新規登録・届出台数（月次、2020年3月～2021年1月）



図表5 百貨店販売額（月次、2020年3月～2021年1月）



(備考) 図表4：(社)日本自動車販売協会連合会「自動車登録統計情報」の登録ナンバーベース及び(社)全国軽自動車協会連合会「軽自動車新車日報累計表」より作成。

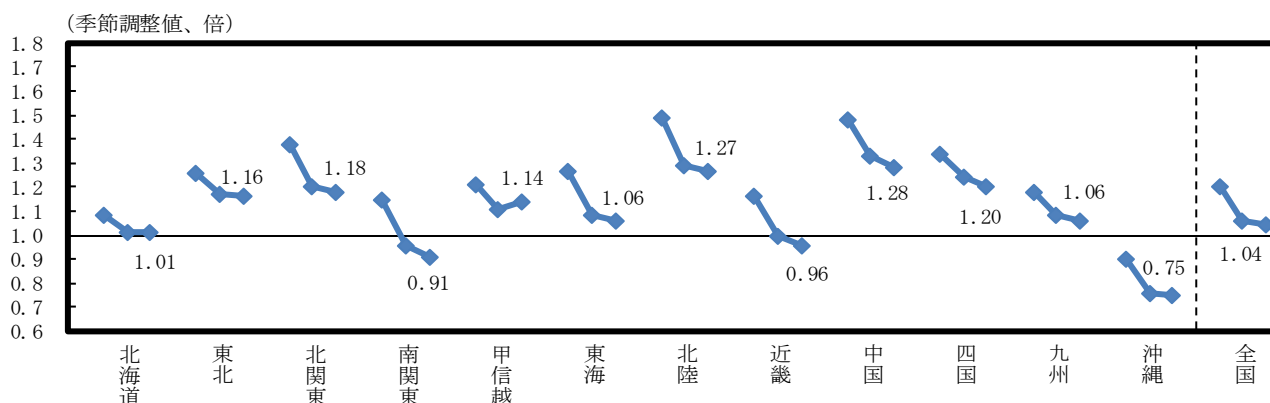
図表5：経済産業省「商業動態統計」より作成。既存店ベース。

関東は、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、山梨、長野、静岡。中部は、富山、石川、岐阜、愛知、三重。近畿は、福井、滋賀、京都、大阪、兵庫、和歌山、奈良。

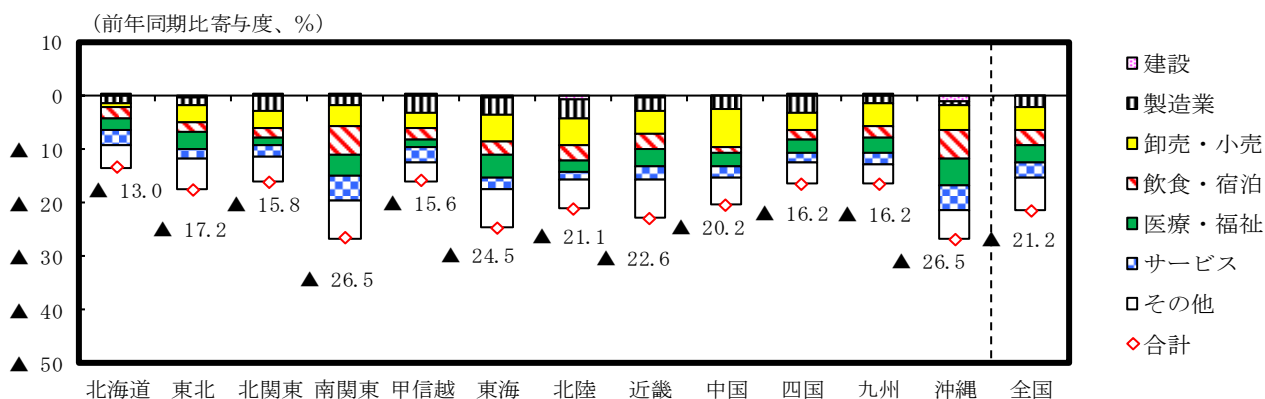
＜雇用＞雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる。

- 雇用情勢について、2020年10-12月期の有効求人倍率（就業地別・季節調整値）をみると、南関東（0.96→0.91）、中国（1.33→1.28）等は低下、北海道は横ばい、甲信越（1.11→1.14）は上昇した（図表1）。
- 新規求人数について、2020年10-12月期の動きをみると、全ての地域で減少。地域別の業種別寄与度をみると、製造業、卸売・小売業等、ほとんどの業種が減少（図表2）。
- 失業率をみると、南関東（前期差▲0.2）、東海（同▲0.2）等で低下、甲信越、近畿で横ばい、北海道（同0.5）、中国（同0.5）等で上昇（図表3）。
- 日次有効求人件数は、ほとんどの地域で緩やかに持ち直しているものの、沖縄（前々年比▲29.2）、東海（同▲26.6）等ではマイナス幅が大きい（図表4）。

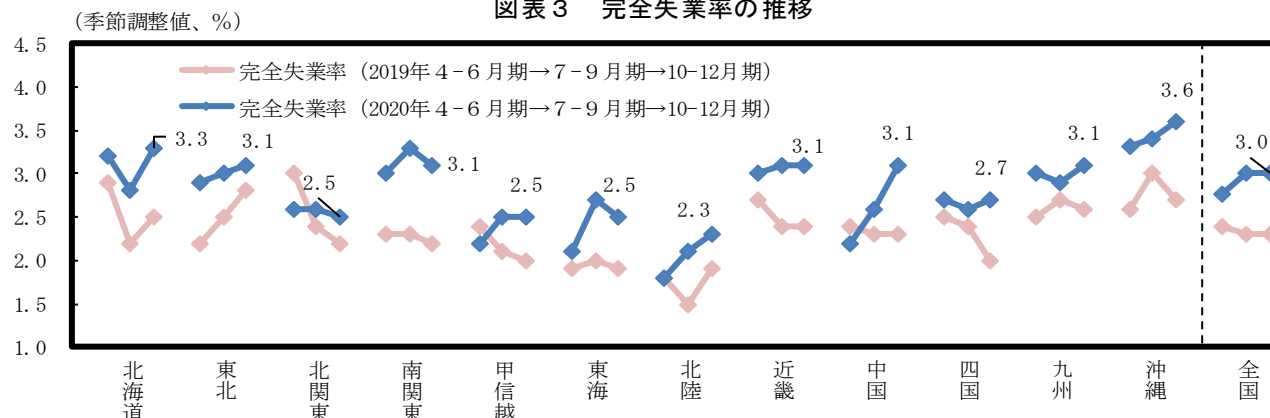
図表1 有効求人倍率（就業地別）（2020年4-6月期→7-9月期→10-12月期）



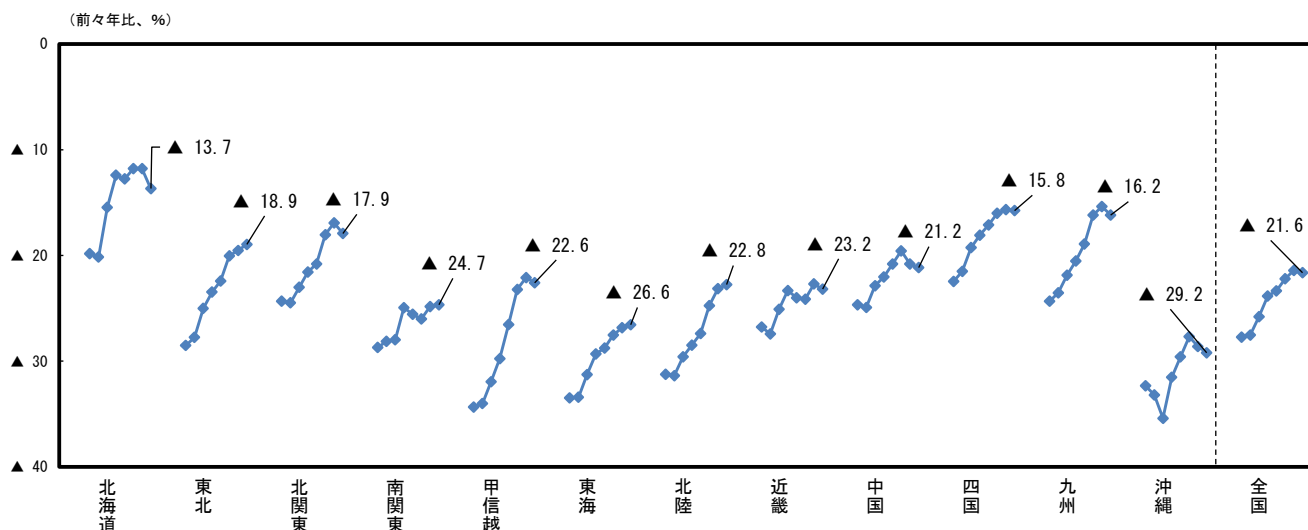
図表2 新規求人数の前年同期比産業別寄与度（2020年10-12月期）



図表3 完全失業率の推移



図表4 日次有効求人件数の推移（2020年7→2021年2月）



(備考) 図表1：厚生労働省「一般職業紹介状況」により作成。

図表2：厚生労働省提供データにより作成（受理地別）。

図表3：総務省、沖縄県「労働力調査」により作成。季節調整値。北関東、甲信越、北陸は、「労働力調査」の都道府県別モデル推計から算出した労働力人口、完全失業者の県別シェアを同調査公表値に乘じることで県別の人数を計算し、内閣府にて作成。甲信越、北陸、中国、九州は内閣府で季節調整。全国、沖縄の季節調整値は、内閣府にて月次値を四半期平均化。北関東、四国は四半期系列に季節性が認められなかったことから原数値と同じ。

図表4：厚生労働省ホームページより集計し作成。

2020年7月は、2018/7/8以前のデータがないため、8～31日の平均。

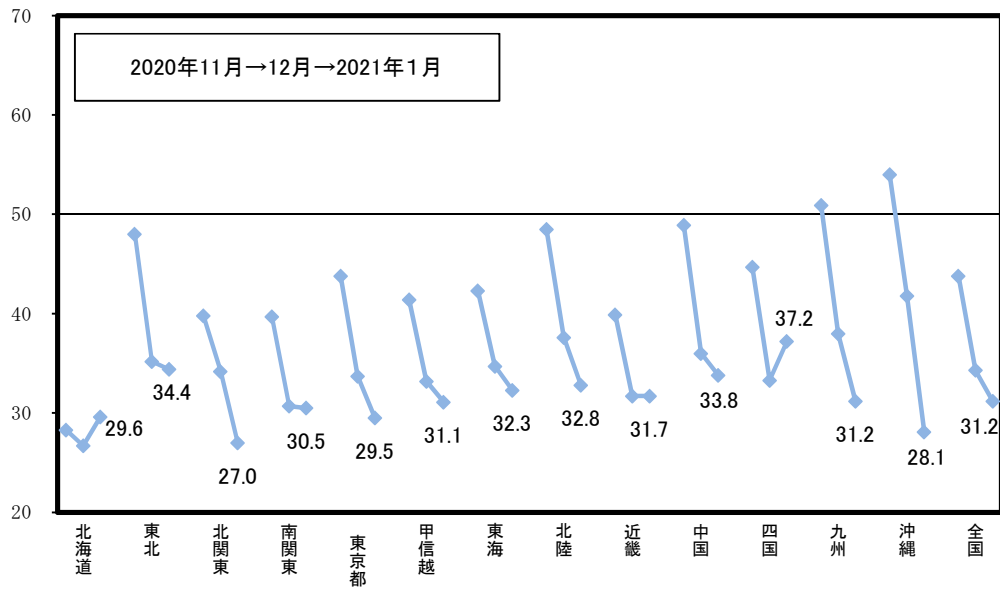
2020年12月は、2020/12/30～31のデータが欠損しているため、1～29日の平均。

2021年1月は、2021/1/1～2のデータが欠損しているため、3～31日の平均。

＜足下の動き：景気ウォッチャー調査（令和3年1月調査）各地域の動向＞

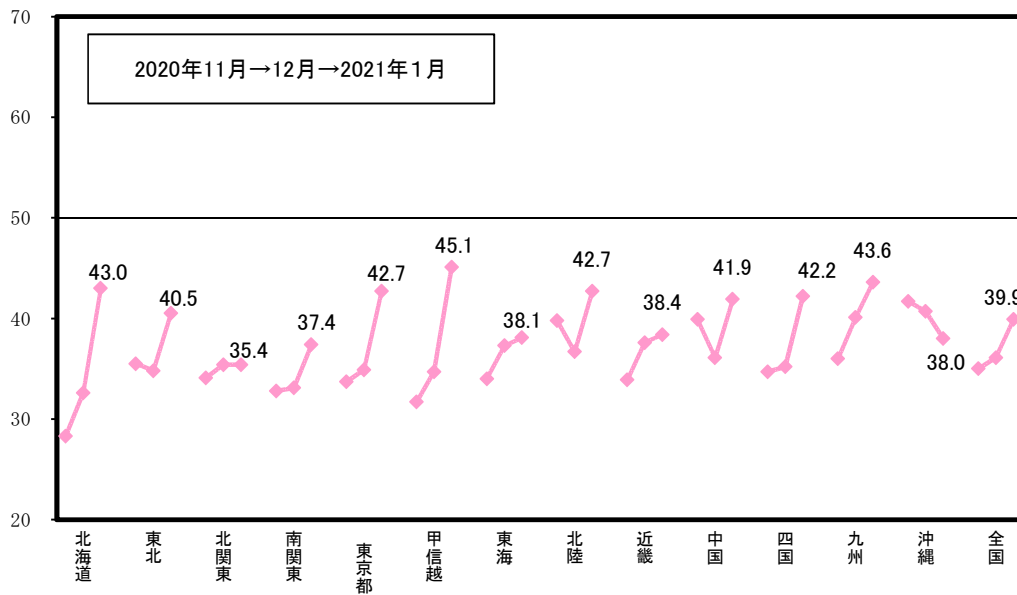
地域別DIの推移（現状）

（季節調整値）



地域別DIの推移（先行き）

（季節調整値）



（備考）内閣府「景気ウォッチャー調査」（令和3年1月調査、調査期間：1月25日～31日）を基に作成。

## ○ 景気の現状判断D I（季節調整値）

前月と比較しての現状判断D I（各分野計）は、全国 12 地域中、2 地域で上昇、9 地域で低下、1 地域で横ばいであった。最も上昇幅が大きかったのは四国（3.9 ポイント上昇）で、最も低下幅が大きかったのは沖縄（13.7 ポイント低下）であった。

### 景気の現状判断D I（各分野計）（季節調整値）

(D I)	年	2020					2021	
	月	8	9	10	11	12	1	(前月差)
全国		43.7	47.8	53.0	43.8	34.3	31.2	(-3.1)
北海道		45.3	47.4	53.1	28.3	26.7	29.6	(2.9)
東北		41.6	43.3	50.3	48.0	35.2	34.4	(-0.8)
関東		43.7	45.5	48.4	39.7	31.7	29.5	(-2.2)
北関東		41.1	44.5	48.4	39.8	34.2	27.0	(-7.2)
南関東		44.6	45.9	48.4	39.7	30.7	30.5	(-0.2)
東京都		48.1	47.1	51.1	43.8	33.7	29.5	(-4.2)
甲信越		41.5	46.5	52.9	41.4	33.2	31.1	(-2.1)
東海		43.8	48.1	50.4	42.3	34.7	32.3	(-2.4)
北陸		42.2	47.6	55.3	48.5	37.6	32.8	(-4.8)
近畿		43.4	46.7	49.2	39.9	31.7	31.7	(0.0)
中国		45.1	49.3	54.3	48.9	36.0	33.8	(-2.2)
四国		47.3	50.9	54.9	44.7	33.3	37.2	(3.9)
九州		46.0	49.0	56.7	50.9	38.0	31.2	(-6.8)
沖縄		36.6	51.8	60.5	54.0	41.8	28.1	(-13.7)

## ○ 景気の先行き判断D I（季節調整値）

前月と比較しての先行き判断D I（各分野計）は、全国 12 地域中、11 地域で上昇、1 地域で低下であった。最も上昇幅が大きかったのは北海道、甲信越（10.4 ポイント上昇）で、最も低下幅が大きかったのは沖縄（2.7 ポイント低下）であった。

### 景気の先行き判断D I（各分野計）（季節調整値）

(D I)	年	2020					2021	
	月	8	9	10	11	12	1	(前月差)
全国		42.9	47.1	47.7	35.0	36.1	39.9	(3.8)
北海道		42.9	48.5	45.3	28.3	32.6	43.0	(10.4)
東北		40.5	44.7	45.9	35.5	34.8	40.5	(5.7)
関東		42.6	46.8	45.1	33.2	33.7	36.8	(3.1)
北関東		40.5	44.1	46.1	34.1	35.4	35.4	(0.0)
南関東		43.5	47.9	44.6	32.8	33.1	37.4	(4.3)
東京都		47.0	50.4	46.6	33.7	34.9	42.7	(7.8)
甲信越		44.7	50.3	47.0	31.7	34.7	45.1	(10.4)
東海		42.9	46.9	46.2	34.0	37.3	38.1	(0.8)
北陸		39.3	46.7	51.4	39.8	36.7	42.7	(6.0)
近畿		42.8	44.9	44.4	33.9	37.6	38.4	(0.8)
中国		42.5	47.6	48.7	39.9	36.1	41.9	(5.8)
四国		45.2	51.6	49.1	34.7	35.2	42.2	(7.0)
九州		41.4	46.9	49.9	36.0	40.1	43.6	(3.5)
沖縄		41.6	53.5	55.2	41.7	40.7	38.0	(-2.7)

